

▶ はじめに 県内の主な園芸品目における現状

本県の園芸品目を中心とする耕種農業は、農業産出額3,505億円（令和4年度）のうち、約32%を占める重要な部門であるが、近年、担い手の高齢化や減少が進む中、農業生産における労働力の不足が急速に進んでいる。

なかでも、育苗に関しては、高度な技術と多大な労働時間を要することから、分業化等による育苗対策を進めることは、生産農家の省力化に繋がるだけでなく、安定生産や品質向上を図る上で極めて有効な対策となる。

また、近年は、県外からの種苗導入が増加するなど、それぞれの品目によって供給ルートが多様化していることから、新奇病害のリスク管理上においても、これまで以上に健全で優良な種苗の安定供給に対する要望が高まっている。

本方針は、本県園芸品目の生産振興を図るため、県内各農業者へ高品質な種苗を安定的に供給をしていくための基本的な考え方を整理したものである。

【主な園芸品目の生産状況（H25とR4の比較）】

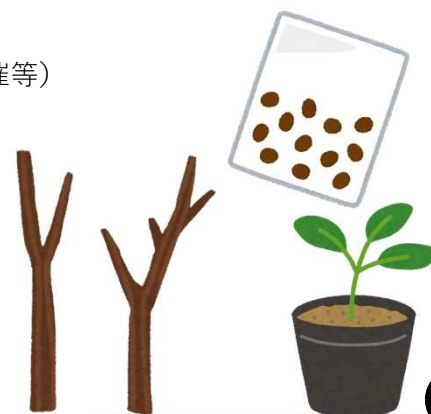
品目	H25		R4		生産の現状（「宮崎の園芸」より）	
	ha	t	ha	t		
野菜類	きゅうり	720	64,700	584	64,500	■生産量は全国第1位（全国のシェアは11%、冬春期は21%） ■県内一円で産地化され、標高差を利用した周年生産
	ピーマン	323	28,200	304	28,100	■全国第1位の冬春ピーマン産地（全国のシェアは18%、冬春期は31%） ■促成ピーマンの共同計算委員会による県内JA共同計算の実施
	トマト	216	20,600	205	17,000	■促成を主体とした施設栽培が約8割で周年生産・出荷 ■生産量は全国11位（うちミニトマトは全国4位）
	いちご	76	2,430	72	2,710	■品種「さがほのか」を主体とした促成栽培が中心 ■夏秋いちごは品種「みやざきなつはるか」、五ヶ瀬町など高冷地で栽培
	かんしょ（食用）	914	15,168	581	8,205	■串間市を中心に栽培されており、作型や貯蔵の組み合わせにより周年出荷 ■品種は「宮崎紅」（高系14号の系統）を中心に、一部「べにまさり」等を生産
	さといも	1,260	19,700	848	13,600	■トンネル栽培から普通栽培まで、作型や品種の組み合わせによる周年出荷 ■令和4年産加工・業務用向け生産量は全国第1位（全国のシェアは78.0%）
果樹類	マンゴー	96	1,126	84	1,258	■全国では11都道府県、面積440.9haで栽培。生産量3,387.2トン ■本県は、面積で19.6%、生産量で36.7%を占め、栽培面積・生産量ともに全国第2位
	きんかん	137	2,477	106	2,619	■本県は、面積で61.3%、生産量で71.6%を占め、面積、生産量とも全国第1位 ■完熟型は面積54ha（51%）、生産量は1,370t（52%）を占める
	ライチ	1.3	3.6	4	22.9	■本県では、平成17年から、ポストマンゴーとして産地化を推進 ■樹齢の経過とともに生産量も徐々に増加。収量安定のための技術確立と普及が課題
花き類	スイートピー	19	38,308 千本	15	30,813 千本	■近年、高温や天候不順により生産が不安定であり、農家の高齢化も進み、生産額は減少傾向 ■令和2年実績で、全国シェア約48.2%（出荷量ベース）を占める日本一の産地。
	ラナンキュラス	3	2,043 千本	3	1,398 千本	■西臼杵地域を中心とした生産であるが、西諸県地域や東臼杵地域でも栽培が行われている ■県内育種家の品種が主力。育種家と連携による品種や、産地のオリジナル品種が栽培されている
	デルフィニウム	3	1,006 千本	3	591 千本	■エラータム系では、作付面積の約4割が県総合農業試験場で育成したF1品種 ■近年、全国的にエラータム系の生産が減少しているため、本県は貴重な冬春の産地である

▶ 解決すべき課題（概要）

- 種苗生産施設では、施設の老朽化や設備不足に加えて、生産技術力の差による品質の格差
- 果樹類など種苗生産に時間を要する品目では、計画的な生産が難しいため、需要と供給が不均衡
- 供給ルートの多様化による、難防除・新奇病害虫の侵入リスクの増大や生産コストの上昇
- 今後、農業生産現場において、健全種苗の安定的な確保が難しくなっていく懸念

▶ 健全種苗供給体制の構築に向けた対応策（概要）

- 健全種苗の県内安定供給体制を構築
 - ① 種苗生産施設の再編（新設/既存施設の更新/設備の高度化）
 - ② 種苗生産技術の開発、技術力の向上（生産技術の共有化、研修会の開催等）
 - ③ 人材の育成・労働力の確保
 - ④ 現場ニーズの把握（品種、必要時期等）
 - ⑤ 魅力的な新品种/系統の開発および探索
- 県内外の種苗生産事業者との連携強化や役割分担を支援
 - ① 情報共有の場づくり
 - ② 優良な品種/系統の共同開発
 - ③ 信頼できる生産委託先の開拓（含 県有品種の育成者権の通常実施許諾）
 - ④ 一次育苗と二次育苗等の役割分担



▶ 種苗供給に関する県内の現状（野菜類）

- 担い手の高齢化による労力不足や経営の規模拡大により、自家育苗から購入苗利用への動きが加速化し、品目・品種によっては、安定的な種苗確保や適期定植が難しい。
近年は、燃油や各種生産資材の高騰の影響を受け、種苗価格が上昇。
- 県内需要に十分に対応できる育苗施設および供給機能が不足しており、県外からの種苗導入が増加。
特に、二次育苗施設がない産地では、県外への種苗導入の依存度が高い。
- 県外からの導入苗は、県内で未発生・難防除・新奇病害虫の侵入リスクがある上、品目によっては品質が不安定。
また、供給先の事情により納期が不安定な場合がある上、近年は、輸送コストの問題も生じている。
- 県内の育苗施設では、施設の老朽化や設備付属に加えて、種苗生産の技術力の差により、苗品質に格差が生じており、特に、夏場の苗の品質確保が難しい。

▶ 解決すべき課題（野菜類）

- 主要品目・品種における農業者および産地の種苗ニーズの把握
- 育苗施設の不足・老朽化、労働力不足等への対応
- 育苗施設の種苗生産の技術力の向上（例：夏場の徒長苗の改善）
- 生産現場の需要に対応できる安定した県内種苗供給体制の構築



▶ 健全種苗供給体制の構築に向けた対応策（野菜類 代表的な品目）

品目	確保対策	増殖対策	供給対策
果菜類	<ul style="list-style-type: none"> ○産地ニーズの把握と品種の選定と需要の把握 <ul style="list-style-type: none"> ▶ きゅうり/ピーマンの推奨品種選定 	<ul style="list-style-type: none"> ○育苗施設の整備（新設/既存施設の更新） <ul style="list-style-type: none"> ▶ バイテクセンター、アグリシード、JAの施設装備の更新・拡充 ○各育苗施設における健全な種苗生産の技術力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 生産技術の共有化、研修会の開催 ○民間企業間の連携/分業化 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 情報共有による連携/分業化の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○健全な種苗の県内安定供給体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 注文～生産～供給までの情報共有
かんしょ	<ul style="list-style-type: none"> ○優良品種/系統の探索 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 農研機構との連携や現地適応性試験 ○優良品種の健全な親芋確保 <ul style="list-style-type: none"> ▶ バイテクセンターとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ※一次育苗と二次育苗の役割分担による分業化と連携 ○一次育苗 <ul style="list-style-type: none"> 茎頂培養苗の生産体制の確立（バイテクセンター中心） <ul style="list-style-type: none"> ▶ バイテクセンターの生産力の強化 ○二次育苗 <ul style="list-style-type: none"> 産地や用途に応じた二次育苗生産体制の確立（JA・民間企業等との連携） <ul style="list-style-type: none"> ▶ 二次育苗体制の構築 	
さといも	<ul style="list-style-type: none"> ○優良品種/系統の探索 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 農試との連携による現地適応性試験 ○優良品種/系統の健全な種芋の安定的な確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○種芋生産者の育成 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 産地内の生産者に対する推進活動 ○種芋生産の機械化体系構築による分業化 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 補助事業の活用による機械化の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○種芋貯蔵体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ▶ JA等と一体となった産地内推進活動

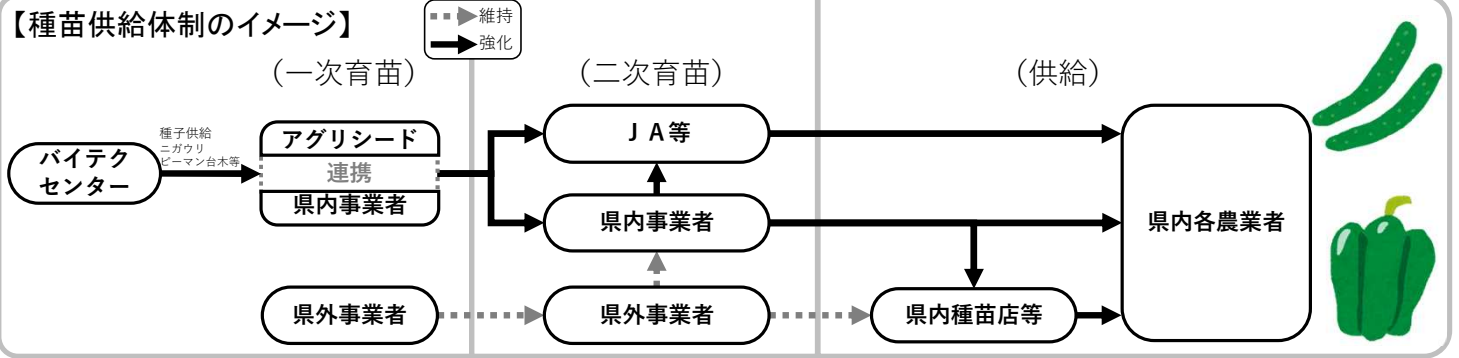
▶ 目指す姿（野菜類 代表的な品目）

● 果菜類（きゅうり・ピーマン等）

▶ 県内安定供給体制の確立

- 公益社団法人宮崎県バイオテクノロジー種苗増殖センター/ジェイエイアグリシード株式会社を核として、ＪＡや民間の種苗生産事業者（県内外）間で、情報交換や技術研修会が定期的に行われ、県内の種苗供給に関する連携が強化されている。
- バイテクセンターやＪＡ等では健全な種苗生産が可能な施設が整備され、高度な生産技術が共有されている。
- 県内の種苗生産事業者による安定供給体制が構築され、生産現場からの需要に対応した苗が供給されている。

【種苗供給体制のイメージ】

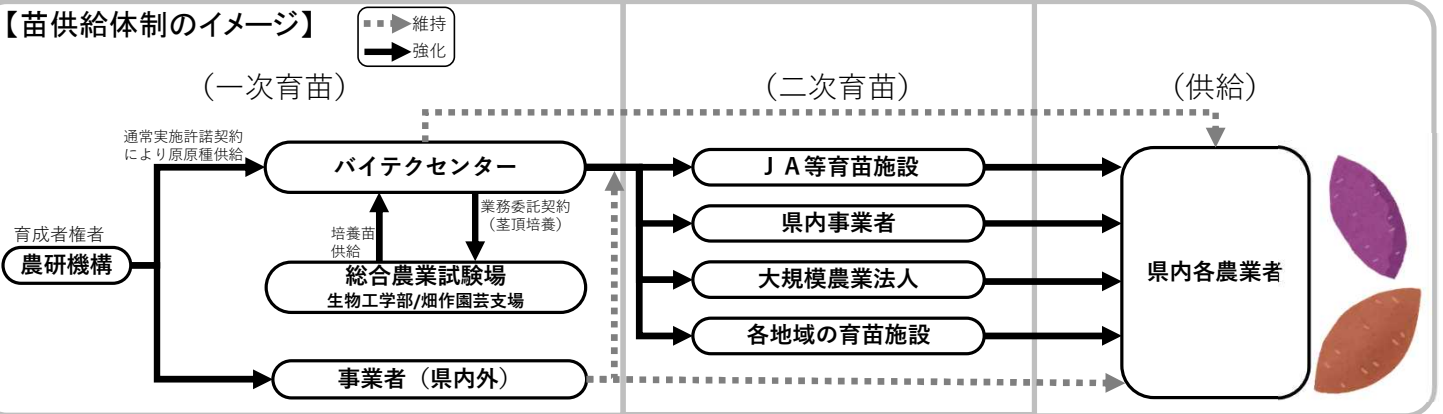


● かんしょ

▶ 茎頂培養苗の安定供給

- バイテクセンターやＪＡ等では、健全な苗生産が可能な施設が整備され、高度な生産技術が共有されている。
- 苗生産における分業化と連携体制が構築され、バイオテクセンターを中心とした一次育苗と、ＪＡや民間企業による二次育苗の役割分担が確立している。
- 実需に対応した優良品種/系統が安定的に確保され、生産現場では、茎頂培養苗を活用した定期的な苗更新が行われている。

【苗供給体制のイメージ】

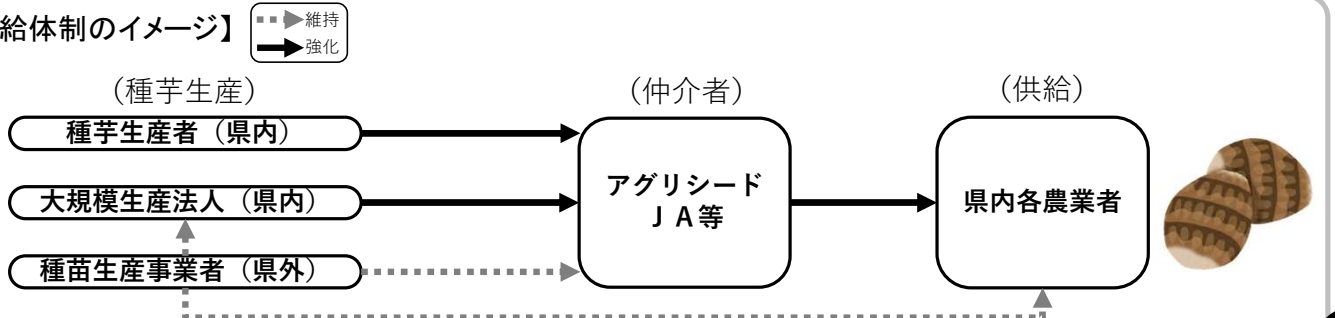


● さといも

▶ 県内種芋産地の育成

- 総合農業試験場において、需要に対応した優良品種/系統が確保され、ＪＡ等を中心に、県内各地域に種芋産地が形成され、健全な種芋の生産に向けた体制が構築されている。
- 生産現場では、作型や用途に応じて健全な種芋が使用されるとともに、定期的な種芋更新が行われている。

【種芋供給体制のイメージ】



▶ 種苗供給に関する県内の現状（花き類）

- 県育成品種などの一部の品目では、育種（総合農業試験場）から種苗増殖・配布（バイテクセンター）までの体制が構築されている。
- 県内の育苗設備および供給機能が不足し、生産現場からの要望（育種・種苗供給量）に対して、十分な対応ができていない。
- 今後の新品種の開発および探索には、県内外の有力な民間育種家等との一層の連携強化が期待されている。

▶ 解決すべき課題（花き類）

- 需要に応じた種苗の供給計画の作成と安定生産体制の確立

▶ 健全種苗供給体制の構築に向けた対応策（花き類 代表的な品目）

品目	確保対策	増殖対策	供給対策
スイートピー	<ul style="list-style-type: none"> ○採種技術の高度化 ▶ バイテクセンターへの技術移転 ○新系統・新品種の探索 ▶ 総合農試花き部の育種等 	<ul style="list-style-type: none"> ○育苗施設の整備（新設/既存施設の更新） ▶ バイテクセンターの施設設備の拡充 ○採種技術の高度化 ○採種委託先の検討（育成者権の活用検討） ▶ 県有品種の育成者権通常実施許諾等 	<ul style="list-style-type: none"> ○種子品質の向上 ▶ バイテクセンターへの技術指導
ランキュラス	<ul style="list-style-type: none"> ○有力な育種家との連携強化 ○新系統・新品種の探索 ▶ 総合農試花き部/生物工学部の育種等 	<ul style="list-style-type: none"> ○育苗施設の整備（新設/既存施設の更新） ▶ バイテクセンターの施設設備の拡充 ○高品質種苗生産技術の向上（メリクロン苗、球根、かぎ芽苗作出技術の高度化等） ▶ 総合農業試験場等の技術指導 ○民間企業等との連携/分業化 	<ul style="list-style-type: none"> ○球根供給体制の構築 ▶ バイテクセンターへの技術指導
デルフィニウム	<ul style="list-style-type: none"> ○新系統・新品種の探索 ▶ 総合農試花き部の育種等 	<ul style="list-style-type: none"> ○育苗施設の整備（新設/既存施設の更新） ▶ バイテクセンターの施設設備の拡充 ○採種技術の高度化 ○採種委託先の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○種子品質の向上 ▶ バイテクセンターへの技術指導
その他 キイチゴ りんどう等	<ul style="list-style-type: none"> ○有力な育種家との連携強化 ○新系統・新品種の探索 	<ul style="list-style-type: none"> ○苗生産技術の高度化 ▶ 総合農業試験場/専技Cの技術開発・指導等 	<ul style="list-style-type: none"> ○種苗品質の向上 ▶ アグリシード等への技術指導

▶ 目指す姿（花き類 代表的な品目）

- 生産現場からの需要に対応できる、安定した種苗供給体制が、バイテクセンターを中心に構築されている。
- 県内外の種苗関係者が互いに連携し、品目ごとの適性にじた種苗供給体制が構築されている。

【種苗供給体制のイメージ】

